令和４年度和歌山市地域福祉計画推進協議会議
事録要旨

＜日　時＞令和５年１月３０日（月）　１３：３０～１５：００
＜場　所＞和歌山市あいあいセンター３階　会議室第３・第４

１　開会
・協議会の開催に先立ちまして、５月に本協議会の副会長であった岩橋様が残念ながらお亡くなりになられました。協議会として岩橋様のご冥福をお祈りして、黙とうを捧げたいと思います。黙とう。

・今年度新しく委員になった方の紹介
　和歌山県子ども・女性・障害者相談センター所長　伊藤　尚人氏
　和歌山市民生委員・児童委員協議会会長　　西村　重光氏
　和歌山市障害児者父母の会会長　岩橋　正悟氏

・福祉局長挨拶
　本日の協議会は、第４次和歌山市地域福祉計画策定後、２回目の協議会となっており、進捗状況についてご報告させていただき、皆様方のご意見を賜りたい。承知のように地域福祉計画は、地域住民同士が思いやり、助けあい、支えあって、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指すもので、地域福祉の推進を図っていくためには、地域の方々や関係機関、行政の連携、協働が非常に大切だと考えている。今後とも本協議会にご協力をよろしくお願いいたい。

・会長（議長）挨拶
　この第４次地域福祉計画は、令和２年から令和６年までの５年間の計画となっており、進捗状況を一年ごとに管理をしていくことになっている。ただこの間のコロナ禍においては、なかなか開催ができなかったが本日やっと開催ができることになった。地域福祉計画は住民との協働で進めていく計画で、各委員の方からの様々なご意見をいただきながら、和歌山市行政と一緒になって進めていく。
　先導的に取り組む事項のアクションとして、和歌山市で、これは地域福祉として力を持って進めていきたいと思うところの進捗状況の説明をしてただくので、忌憚のないご意見をよろしくお願いしたい。

・副会長の選出
　和歌山市老人福祉施設協議会会長　中谷　幸子氏

２　議事

・資料について事務局から説明

計画策定後の経過及び実施プランについて【資料１～４】

【議長】

資料の１から４の資料にそって説明のあった事項について、意見・質問等をお受けしたい。発言される方は挙手し、発言をお願いしたい。

【委員】

避難行動要支援者名簿の推進のところですが。うちの母はもう要援護者になると思うが支援するほうの名前を求められたことがある。あまり意図がわからず、近所の人が誰に助けてもらえるのかと思い、自分の母親にサインしてほしいということを言ってきたことがあり、数年前にサインの話をしたことがある。

先ほど、六十谷橋の水管橋崩落の際の給水の時に、実際その名簿が役に立ったという報告があったが、それは確実な名簿になっているのか、あともう1人近所で助けてもらえる人がいるかという項目が確かあったと思うが、そういうところなど、現実的なものになってるいるのかという不安がある。そのあたりどのように確認をしているのか。

【高齢者・地域福祉課長】

名簿に関して、作成はできている。本人同意をいただいた分について、地域の自治会、民生委員、行政機関として、消防、警察にお渡しをしているところ。ただ、令和３年度に国が示した個別避難計画については、現在、去年システムの改修をして進めていく途中である。国では５年をめどに、努力義務にするということになっていて令和3年度の法改正以降、細かい避難計画というところまではできていない状況である。

【委員】

有田川町とかは２年３年ごとに訪問までして変えている。日中はどこに居て、夜寝るときはどの部屋だっていうところまでやってるけれど、それも何年かしたらまた変わってる可能性もあるのでこまめに行っているという話を数年前に聞いたことがある。

それを和歌山市でやるというのはとても無理だと思うが、避難計画の趣旨をきちんと説明して、協力いただく自治会長さん等、みんなが理解できるように、また、実のある名簿を作成できるようお願いしたいと思う。

【高齢者・地域福祉課長】

はい。ご意見を賜り検討させていただきたい。

【議長】
　確かにその通り。システムは作ったが実際にこれがどう機能していくのかは非常に大事な問題。ご検討をお願いしたい。

【委員】
　地域づくりの推進の施策の中で、地域交流として、食事会、配食、ふれあい広場等、開催されているという説明があった。
　現在、私の住んでる地域では、１年前からふれあい配食サービスという事業を始めた。このふれあい配食サービス事業というのは、地区内にお住まいの７５歳以上のひとり住まいの高齢者の方を対象に、自治会、民生委員、そして地区社会福祉協議会が協力して、その高齢者の方にお弁当を届けるという事業。心待ちにしてくれる方が、たくさんおり、孤立を防ぐとともに安否確認もでき、元気な顔を見るなどの見回り活動の役目も担っており効果が大きい。令和５年度も引き続き事業の実施を計画している。社会福祉協議会の補助金で高齢者の方の負担軽減については対応してるところである。行動制限緩和の動きもあり、各地区でも事業実施が多くなってくると思う。そこで担当課の方にお尋ねしたい。高齢者の健康、生きがいのための高齢者支援の補助金について、社会福祉協議会等、今日参加されてる各種団体への補助も含めて、この令和５年度は、補助金について維持、または減額はされていないのかどうか、お尋ねする。

【高齢者・地域福祉課長】
　社会福祉協議会に委託している、サービス系の委託料については、来年度も同水準で要求させていただいている。議会が終わってからの確定になるが、減らしているということはない。

【和歌山市社会福祉協議会事務局長】
　この多機関協働事業の中で、市から事業費をいただいて事業を進めてる。令和５年度予算は、令和４年度の実績をもとにという形で予算を組まれており、その辺は数百万ほど減額になっている。

【委員】
　そしたら運営上については、十分対応はできるのか。

【和歌山市社会福祉協議会事務局長】
　令和５年度のコロナの状況も、まだわからないので、令和４年度並みの活動はできるが、コロナがなくなれば、ひょっとしたら予算的に足らなくなる可能性もあるかと思う。

【委員】
　地区社協で現場を担当している。ふれあい祭り、食事会、それからサロン等を地域で開催するように指導させていただいてる。確かに福祉の予算を減額されると聞いている。このコロナの時期は、特にこの３年間活動は縮小させていただいた。だから今少しずつ元に戻そうという形で、地区社協も動いている。徐々に動きつつあるところへ予算減額、活動したいなと思っても、縮小せざるをえない状況がおこっている。だから私たちはどういうふうな形で、活動させていくのか課題としてかなければいけないと考えてる。

【議長】
　予算については、非常に難しい問題。けれど、現場の声を聞いていただいて、そして協働と言ったときには、その予算を削減して、民間に人手を任せながらできるという類のものではない。むしろ協働していくことによって必要な予算をきちんと確保するというのも同時に必要である。いろいろな部署で予算というのがあるが、そういったことも地域福祉の場面からぜひ考慮をいただきたい。今後、和歌山市の地域福祉推進のために、ご考慮いただければというふうに思っているが、それはこの協議会皆思ってることだと思う。

【委員】
　この資料を見させてもらい、毎年、同じような報告だなと思う。行政としたら、これはやむを得ないな、これぐらいだろうなと思う。中でも一番気になったのは、私自身の前職で仕事をしていた関係で、学校教育関係が特に気になる。１ページと４ページ目、あとどこか１ヶ所、学校教育が出てくるが、同じ文章である、全く。それがとても、学校教育が、地域おこしにもう一つ、気がきいていないんだなあという感じを受けた。私は、学校教育がとても大事だと思う。地域福祉では公助、共助、自助がある。共助、自助を、育てていくのは、学校。特に小学校が、地域の中心を担っていかなければならないと私は思っている。
　私、４年間小学校で校長させてもらった。その時に、学校が担う役割や福祉においても、地域の組織を立ちあげて、地域の人たちを起こしていくのは、小学校で、皆さん集まれるのは小学校である。市役所の支所や公民館でもない。この食事サービスにおいても、施設のある地域はいい。私のいた地域でも立派な施設がありましたが、そこでは週1回、独居老人に対する食事配達をしていた。だけど、ほとんどの地域はこういう施設がなく、どこでやるかというと、小学校である。今、土曜日や日曜日空いている。小学校の特に管理職の先生には負担になるかと思うが。昔、私がいたときは、学校週5日制になる、その時に、土曜日の扱い方がとても問題になったので、子供が自由に遊べるように学校で子供広場というのを作った。そうしたら、地域の年寄もどんどん参加してくれた。そういうことが、私はとても大事だと思うのに、そういう事柄が出てきていなのがとても残念に思う。もうちょっと学校教育、特に小学校部門が積極的にこの問題について、考えていくべきだと、

私は思う。

【議長】
事務局の方から何かありますか。

【学校教育課長】
実は私も昨年の３月まで小学校現場にいて、昨年の今頃は、卒業式をどうしようか等と考えていた。先ほど文章が同じだというご指摘いただいた。私が行っていた学校では、総合的な学習の時間に、地域の方と地域の公園の清掃をしたり、地域の年配の方が活動しているところと、子供たちが考えた健康体操ということで、学校の中で交流している。また、地域先達の方に来ていただき、１年生が昔の遊びを教えていただいたり、５年生６年生がミシンの学習をするときに、教員だけではどうしても、子供たちのグループのところにつけないということで地域の方にサポートしていただき、地域先達の方との交流を進めていた。
和歌山市の小学校５０校で、それぞれ地域との関係の中で様々な学習活動を通して、交流活動はやっていると思う。ただご指摘のあった、文章が同じになっていることについて、表記としてどうかということを検討させていただきたい。

【委員】
和歌山市内の小学校では福祉のことも含めて、具体的に例えば車椅子体験やアイマスクを使っての体験は、４年生あたりで教材としている。ただ、総合的な学習の中では、コロナの前までは、例えば学校の近くの特別養護老人ホームなどの施設で、高齢者の方と触れ合い交流していたが、施設や学校がお互いに感染防止ということで、途絶えているのは事実。
もう一つ、和歌山県か市か、認知症に対する理解ということで、すべての学校の子供たちに対して出前授業というのを計画的にやってくれている。文面ではなかなか表せないが、このコロナ禍においても、少子高齢化の中で、これは欠かせないという取り組みであるので、少なからず、やっている。今は人権教育も関わりながら、子供の時にきちっとそういった価値観や行動力をつけておかないと、大人になってから、やっぱり大事だなと思っても、なかなか難しいなと思うので。小学校できちんと心根を育てて、そして中学校でいろいろ体現型の被災の社会体験など、どんどん視野を広げていくことが大事だと思う。今、そういったいろいろな人と触れ合うということをやっていかないと、本当の教育にはならないというのは感じてる。

【委員】
すみません。ちょっと言葉不足だったなと痛感しているが、私はそういうことを聞いて

るのではない。私が現職の時には学校に、学校教育協議会、及び地域教育協議会というこの２つがあった。今、和歌山市においては地域教育協議会というのは、存在するのか。文科省が多分この２つを当時言っていた。ここに出ている子供センター事業というのも、私が４０半ばぐらいの時に、文科省から指定を受けて、取り組んだことがある。要は、地域教育協議会というのは各学校にあって、そこに地域における各諸団体が、関わって入ってくるような会議があるのか。そこが大事であると私は言いたい。そのことによって、子供たちに遊びを教える、ということが、出てくると思う。だからそういうことを小学校で、起こしていかないといけないというのが私の持論。今からほぼ３０年前、多分文科省もそういうふうに言ってると思う。人権教育については、どうかというのではない。そういう地域教育協議会という取り組みが、私の住んでるエリアではないようだ。
そして、私も地域の中において、小学校２年生に昔の遊びを説明していた。それがコロナでなくなった。子供らが地域に来て、そこで私が説明していた。校区もあまり気にする必要がないと思う。今小学校はそういう状態である。だから災害が起こった時など、そういう地域教育協議会がとても大事だと思う。今の状態なら、災害が起これば、みんな、バラバラになり、和歌山市どうなってるの、となる。でも、それは違うとおもう。もっと自分たちや自治会の中で何かできるだろうと思う。

【議長】
　地域を密にしていく手段はいろいろあると思うが、委員がおっしゃったように、子供さんというのがものすごく良い接着点というか、主体になると思う。
　地域の協議会を学校の中に作るかどうかというシステムの話もあるが、うまくいろいろなシステムを活用しながら、子供を主役にして、いろいろなところに波及をさせていくことは可能だと思う。他の自治体の事例として、地域の伝統を子供に教えるとか、地域の人たちが学校の中に入っていくというのを、いわゆる高齢者の協議体の第１層第２層の２層が非常に積極的にやってる自治体がある。そこは、むしろ介護の高齢者の健康づくりの関係のところから、積極的に学校と連携してやっている。それで結果的に学校にすごくいい影響が生まれている。だから子供というのはすごく大事である。子供を通して大人も変わるし、いろいろな発見の糸口になる。例えば、子供の貧困、ヤングケアラー、子供の虐待に関しても、人権保障という観点からも、子供を中心に進めていかないと、何事もうまくいかない。それは福祉や教育だけの問題ではない。いろいろなところと連携しながら、そういうシステムを実質的に和歌山市が、どうつくっていくのか、密接に関係すると思うので、是非ともそれをお願いしたい。

【学校教育課】
　学校と地域との関わりの協議会というか、委員会ということで聞いていただいたが、和歌山市の小学校中学校には、コミュニティスクールいわゆる社会学校運営協議会をすべて

の学校で、設置をするということになっている。ただコロナ禍で開催できないとか、紙面でということもあるが、年間３回、それよりも多くという形で、学校運営協議会をどこの学校でも開催している。その中で、先ほど言われた地域先達や地域の方にお願いをしたいなということを今核として、地域との関わりを進めているところ。

【議長】
　ぜひよろしくお願いをしたい。次年度より具体的な姿が見えるような形で、いろいろピックアップし、ご報告をお願いしたい。
続いて、議事２その他ということで、各委員にマイクを回すので発言をお願いしたい。

【委員】
　コロナによって、地域の中での連携というのは、分断させられてるように思う。例えば、マスクで言葉が明瞭に聞こえなかったり、顔の表情が十分にわからなかったり。また聴覚障害の人であれば、顔の表情や唇を見られないために、言葉が見取れない、ということで障害を受ける。視覚の障害ですと、手で触れて物を見る必要があるが、手で触れられないものがすごく多くなった。単なるデジタル化だけの問題ではなく、コロナのせいであろうと思う。買い物に行くと、お金を直接手渡ししないでオートレジ機械を使うとか。視覚障害の場合、ああいう機器を操作するのは大変。コミュニケートということについて、非常に苦慮している。

【委員】
　地域の関わりというところで、私どもは、身体障害者更生相談所や中央児童相談所がある。地域の方からの虐待通告やサインということも、数は多くはないが、やはりセンターに言ってきてくれてる。全部が全部、地域の力でというのは難しいが。またそういう通告とか、いろいろ協力していただけたらなと思う。

【委員】
　私どもも、地域との関わりを密にしていかないといけない立場。ただ待っていても、なかなか繋がりは作りにくい。行政が動いてくれるのを待ってても、ちょっと時間かかるし、やっぱり自分たちでその関わりを作っていかないといけないと思っている。また、地区社協のご指導のもと、サロン等やっているが、市の予算を待っていてもなかなかつかないというのも、皆さんも肌で感じているであろうと思う。我々は工夫をして、皆さんもご存知のヤクルトさんとか、牛乳屋さんとか、健康食品のそういう方とタイアップして、健康についての講演をしてもらったり、機器を持ってきて骨密度測ってくれたり、そして飲み物を最後出してもらったり。そうするとその場に何十人か集まっていただける。だから、行政の方はそういう企業をご存知であれば各地区に紹介するということもやっていただいた

ら、少しは広がるのかなと思う。
　それから、少年センター事業は、我々の地区では３校の小学校があるが、全校でやっている。今年から我々民生もそこに入っていこうとして今、学校と調整している。学校の行事についても挨拶運動や各学校との情報交換会というのを自主的に学校の了解のもと、やっている。待ちの姿勢よりも、やっぱり我々民間や住民が入って立ち上がって変えていかないと活性化していかない。我々民生委員児童委員協議会、これからもっと積極的にこちらから立ち上がって能動的にやっていきたいと考えている。

【委員】
　コミュニティバスのことで、いろいろと悩んでいる。安原地区にコミュニティバスを走らせてくれており、本当にコースもよく考えていただいてる。ただ、本渡地区は４、５０人子供がおり、吉原地区も、本校に通っている子供が少なくとも２０人ほどいる中で、一緒のルートだと、とてもじゃないけれど乗り切れない。そのコミュニティバスについて保護者から「これ使ってもいいですか」と問い合わせがあった時だけ、「いいですよ」と言いますが、こちらからなかなか発信できない。発信すると、本渡地区４、５０人いる子供たちが、一度に乗り切れないし、１時間半から２時間に一本しかない中で、乗り遅れたら、乗り切れなかったらと、その心配もしなければならない。かといって、歩いたら１年生では一時間かかる道のりである。できたら本数を増やすか、またはもう少しルートを短くして、朝の間だけでも、要するにまだ買い物に行く時間帯ではないときは、ショートカットして、もう通学専用にしていただくとか。というふうに考えていただいたらもっと利用価値というのか、利用度が上がると思う。学校としても、「使ってくれたらいいですよ」と、発信しやすい。

【議長】
　はい。ありがとうございます。コミュニティバスのところの部署は、来ていませんか。こういった話が出たことを担当課にお伝えをいただきたい。

【委員】
　前回の協議会は、ちょうど六十谷橋の水管橋の崩落のちょうど１ヶ月後の令和３年の１１月に開催された。その時、発生後１週間は、紀の川より北部の方は断水状態が続き、大変だったと思う。そのとき自衛隊、消防、和歌山大学の学生さん、それと地域自治会の高齢者の方々も、水を汲んで、支援したという温かい意見が多く紹介された。地域の力やその助け合いの重要性を実感した。私も地域の活動について、少しであるが参加しているので、これからも関わっていきたいと思っている。

【委員】
　皆様の熱いご意見を拝聴し、感心、勉強させていただいた。３年に及ぶコロナ禍の中で、認知症対策、それから災害対策等、地域ぐるみの活動を考えている。和歌山市医師会としても、行政と連携して地域福祉活動に協力していきたいと考えているので、よろしくお願いいたしたい。

【委員】
　この表現の中でアウトリーチという表現がある。大体の感覚はわかるが、こういう表現は本当に皆さんがたに、一般的な言葉なのか。
　それから、障害という表現がこの中で二通りある。ほとんどが漢字であるが、障害のがいがひらがなで書いてある表現もある。それは障がい者スポーツという表現で書かれている。和歌山市としては、障害の表記について、統一をしていただきたいと思う。

【議長】
　１つ目のカタカナがわからないというのは結構、同感。国もアウトリーチと言っている。わかりやすい表現というのもなかなか難しいと思う。後者の方は非常に重要な指摘だと思われるので、少しご検討いただければ。

【委員】
　自治会としては、地区社協様のご指導により福祉についていろいろやっている。単位自治会で自治会館のあるところは、地区社協さんからご指導いただいた活動がスムーズにいくが、自治会館のないところが、コミュニケーションが取れないので、どうしたらいいか、今いろいろ考えている。公園が各地区にあるので、その公園を使って、机を並べて何かする場を設ける青空公民館を研究している。今まで活動する中では出席される顔ぶれは一緒。なかなか広まらない。何とか自治会館のあるところは広がっていくが、ないところは、難しい。今、青空公民館を検討しようと取り組んでいる。地区社協さんに指導いただき、一緒に取り組んでいるところ。

【委員】
　今、私達の地域で取り組んでることを紹介したい。地域のリーダーというのは高齢者が多いので、若い方を育てようということで、地域のリーダー養成担い手づくりという、まちづくり活性化委員会というのを立ち上げて、中学生を主体となって、２回会議をした。夜の７時からの会議にもかかわらず、中学生の参加をいただいた。地区に小学校が３校あり、代表ということでお願いし参加していただいた。そこへ校長先生、ＰＴＡ、女性代表、各団体の人が何人か入っていただき進めているところ。次回は２月、中学校の生徒さんが座長となり会議を開いてくれ、そこへ私達が行って、その地域をどのようにしてこれから

活性化していくか、というような取り組みをこれから進めていく。
　そして、地域と中学校との交流を考えながら若いリーダーを育てていく、地域のため人のため、しいては自分のためということで、負担のかからない楽しい地域づくりを目指して頑張っている。いい方向に進むよう、皆様方のご協力を是非お願いしたい。

【委員】
　私のところでは和歌山市ブロックという形で、災害の研修会をしている。地域で、隣保班が集まりやすく多いので、もし避難所を開設する時、どういう運営をしていくか、実際どういうことが困るだろうということを話し合い、講師を呼んで研修会を２，３年ずっと行っている。
　もう１つちょっと、もしよかったら教えてもらいたい。この３月下旬に、告示予定になってる「困難な問題を抱える女性への支援のための施策に関する基本的な方針」というのが出たが、これは、この様々な困りごとを支える仕組みづくりとかいろいろ、この会議とは、関係がないのか。保健所とか、女性相談所とかも関係してくると思うが。実際のところ女性相談所の内容がこれに置き換わるということなのか。このことは和歌山県では子ども未来課がやっている。和歌山市はどこが担当となるのか。また、来年の４月から始まる準備はどういう形になるのか。

【議長】
　今、状況がわかれば、回答をいただいて。もし、今詳細がわからないということであれば後で文書の方でお願いしたいが。

【高齢者・地域福祉課長】
　本日出席してる課では、担当できておらず、一度調べさせていただきます。

【議長】
　よろしくお願いしたい。非常に重要な問題だと思う。
では、皆様からご意見をいただき、議事すべて終了しました。

３　閉会